

一平沙を頼りては高しは高しと構へて
澄たる若かりて大なるを家寄は成敗も有るに
平沙より来りぬた何人かといふ人多し一軒の
鳥山屋に托し居るも何れも各以て念中に入
りていと頼りて大なるを家寄は成敗も有るに
拾玉平洲に居るも千通も暇なれども或は
のう淡光の事もして居るも青同の友も
も平沙の事もして居るも青同の友も
とて人とて代りて作らぬ平沙服する人
は高しは高しと構へては高しは高しと

論難ゆかいに交遊を小言いふ唐詩交接の法能面を
又し且余との交遊を言ふ事な地を拂いと平沙
妻もし大なるを家寄は成敗も有るに
も平沙の事もして居るも青同の友も
志の中にも我の事もして居るも青同の友も
夫も志の中にも我の事もして居るも青同の友も
道をもて大なるを家寄は成敗も有るに
も平沙の事もして居るも青同の友も
中にも我の事もして居るも青同の友も
過るは美巾人と友と中遠は

西余六回子成壯歲從學平洲紀氏今年七十
有餘然記少少之事又始記弟澤唐山公之治
蹟云吾友木子勤村上某屢訪子來談及尚
時平隱而祿之凡得二十八条以為其語脫更
請子成正之正本隱來謹為贖之倘之

世子之宮且以其原本贈之 村春 受而後之竊
以謂古今列藩者名之君不少而天下以為智

以唐山公為最第一者何也涵養省察全体此
心隨弱為感隨感為應最為至誠惻怛之政
深深一箇人臣之心而若恢好義之風化行
是所謂以德者之推不忍之心若也豈抱一己
名利之心者所能也哉其公之治之愛本平
涉則平洲之學之誠施諸平素而得實用者近
世諸儒殆無不僅為為吾國了教仰也則公與

平少一言一行，扶植綱常，利用民生，可以羽翼
聖賢傳，是子勤業之，所以有以素，不可不傳天
地之官也。或夫問之名儒，而受德教，同世大賢，
親見其言，如子成者，其君子之至幸也。而皆為
世者之，則其淳淳款語之際，豈莫愴然感
回之情哉。為之撫卷，因識其後，為式弘化，丙午
秋九月

核井時存謹誌

289J